

国登録 有形文化財(建造物)
山梨大学水晶庫



水晶庫（登録有形文化財）



水晶庫は、山梨師範学校当時の1920年(大正9年)に、薬種商であり鉱物の収集・鑑定に携わっていた百瀬康吉氏から、学術的にも工芸品としても大変貴重な水晶及び水晶加工品の寄贈を受け、これらを保存展示するために、1927年(昭和2年)に標本室として建設されました。当時としては珍しい鉄筋コンクリート造りで(平屋建て、延べ面積は40㎡)、水晶をイメージしてデザインされており、柱を水晶の基本構造である六角柱に見立て、建物

物正面上部には水晶原石や水晶の産地である水ヶ森※を表した装飾が施されています。戦時下では本学も空襲に遭って全ての校舎が焼失した中、教師と学生は水晶を守るため、防弾壁と竹で建物を覆い、戦後はGHQに接收されないよう、藁と牛糞でカモフラージュし、命がけで守った歴史の残る建物です。

1949年(昭和24年)に山梨大学が発足し、2004年(平成16年)に国立大学法人化を経て、2015年(平成27年)ノーベル医学・生理学賞を受賞された本学卒業生・大村 智 博士の功績を顕彰するために2018年(平成30年)7月に建設した『大村智記念学術館』の隣に曳家により移設し現在に至っています。

※水ヶ森(みずがもり)は、山梨県甲府市と山梨市(旧東山梨郡牧丘町)の境にあり、秩父山地の南西部にある山・丘陵・高原である。

百瀬康吉氏と水晶庫

百瀬氏は、薬種業を営むかたわら、趣味として水晶収集を行っていましたが、王水(塩酸と硝酸の混合液)による水晶の美麗法に成功してから水晶収集に熱中するようになりました。その後、巨智部忠承博士の助言により、飾り物としての収集だけでなく、学術参考品としての収集を心掛けるようになり、学術的に価値の高い多くの水晶類を収集しました。

百瀬氏は収集にあたって、優秀な水晶の見分けは大変困難であることから、多くの人の欲しがる水晶、専門家の目を付けた水晶を手元に置くことにし、その方針を断固として貫きました。

また百瀬氏は、収集に際し、水晶及びその加工品を 1.結晶が完全なもので人工の加わらないもの 2.偉大なもの 3.各産地の特色を充分発揮しているもの 4.素人の愛玩用となるものに分類していました。そして、分類の1~3に相当する山梨県産の貴重な水晶を山梨県内に留め、しかも個人の秘藏品とするのではなく、広く学術的に利用してもらおうとともに、散逸を防ぐために、大正9年(1920年)に当時の山梨県師範学校に寄贈しました。



水晶庫の歴史



国登録 有形文化財(建造物)

2020年8月17日登録有形文化財に登録

Aug.2020



水晶庫の移設

2018年6月「山梨大学大村智記念学術館」
の開館(2018年7月)にあわせ学術館横に移設

Jun.2018



水晶展示室

2004年6月に水晶展示品類の移転計画
が進められ、2005年4月に本部棟2階に
展示室を開設

Apr.2005



水晶庫の外装改修

総合棟の前になった水晶館は2000年9月
の外装工事により外観を一新

Sep.2000



開館当時を留める 水晶庫

Jun.1975

1927年以来水晶を型取った建物が甲府キャンパス
北門入口(現 正門)に立っており、古色蒼然とした
威容で当時を偲ばせる



水晶庫内展示風景

大水晶をはじめ寄贈当時
の展示室内の水晶類

Apr.1965

1934

水晶寄贈記念碑

百瀬康吉から水晶類が寄贈され、その
業績を記念して石碑を建立



水晶類の寄贈

1920

百瀬康吉から当時山梨大学の前身である
山梨師範学校に水晶類を寄贈

水晶庫コレクション

原石

水晶原石類は、竹森鉱山、乙女鉱山、八幡山、水晶峠、向山鉱山、川端下鉱山などから産出した群晶と日本式双晶です。紫水晶の算出は少なく、僅かに黒平鉱山、水晶峠周辺や乙女鉱山、小川山などが知られています。その他、平行連晶をなす松茸水晶、冠水晶の多くは、黒平鉱山、松木尾根、甲武信鉱山などが、同時に産出する鉱物のトパーズ、燐灰石、重石は黒平鉱山、八幡山、乙女鉱山などが代表的な産地です。



大水晶

六面体の結晶面を完全な形で備えた、世界的に数少ない大型水晶です。脇水鉄五郎博士によって地質学雑誌（1918年）によって発表されました。これによると、水晶の長さ97cm、最大幅径30cm、周囲80cm、柱面の最大幅18cm、重量77.5kg、結晶半透明、柱面は磨かれています。



水晶峠産水晶晶族
長柱状結晶の群晶からなり、一部草入り、昭和9年産出。



水草水晶

中巨摩郡宮本村（現甲府市）雄鷹山産雄鷹山産の特徴をもつ水草入り水晶です。緑簾石などの鉱物が水晶の形成時に包有された大型で美しい草入り水晶です。



日本式双晶

最良の双晶よりなる、大型の日本式双晶です。

工芸品

工芸品類は、江戸時代末期の水晶玉が1点、明治時代には花瓶、硯、櫛、簪、笄、玉兔、富士置物、ステッキの握りなどの主に生活必需品が、大正時代にはネックレス、帯留、切子の手掛数珠、雅印などが、昭和初期には鶏、富士山置物、兎、裏彫り五重塔などの彫刻品類やレントゲン用丸棒、プリズム、母子印、眼鏡、櫛などの実用品類が制作されました。



水晶玉

嘉永5年製作

江戸時代の作品で、現存しているものは珍しいです。当時の加工技術の高さがうかがわれます。

※山梨ジュエリーミュージアム展示



櫛

明治時代に作成されたにもかかわらず、非常に高度な技術が使われている作品です。この作品は、横8.0cm縦3.0cmの和櫛で櫛の歯一本一本が精巧に仕上げられ、美しい磨がかけられています。

※山梨ジュエリーミュージアム展示



水晶花瓶

明治6年製作

名工塩入壽三氏により加工されました。古い銘板によると当時加工に使用した金剛砂一俵の工賃は、数百金といわれています。

※山梨ジュエリーミュージアム展示



水晶硯

明治6年製作

名工塩入壽三氏作製によるものであり、透明良質品で一部に電気石を包含しています。



五重塔置物裏彫

昭和初期の作品で、三角形に近い水晶の原石の特徴をいかして、結晶の稜の部分に切れ込みを入れ、五重の塔を表現しています。三重に見える彫刻が五重の塔に最適な光の効果を生んでいます。

※山梨ジュエリーミュージアム展示



鶏置物一對

昭和初期の作品で、横幅5.2cm高さ6.2cmの雄鶏と、横幅6.0cm高さ4.0cmの雌鶏で一對をなす、紅水晶製です。細部まで彫刻が施され丁寧に仕上げられています。

※山梨ジュエリーミュージアム展示



母子印

製作年代：大正初期

特徴：頭部半球面状磨きした正方形大型雅印



眼鏡

製作年代：昭和初期

特徴：球面磨き円形。レンズ玉径4.2 cm

山梨県と水晶

山梨県内の地質は、マグマが冷えて固まってできた火成岩地帯が広範囲に分布していますが、その中でも甲府盆地から長野県川上村までの地帯は、マグマがゆっくり冷えて固まった深成岩に分類される花崗岩体が広がります。この花崗岩体の中でも金峰山を中心とする比較的標高の高い場所にはペグマタイトが点在しています。

水晶の多くは花崗岩の中に生じるペグマタイト（巨晶花崗岩）や熱水脈中に多くみられます。ペグマタイトは地中深くにおいて長い時間をかけて花崗岩マグマが冷え固まった最後の部分であり、ペグマタイトからは大型で良質の結晶が産出します。

花崗岩は熱水脈の熱源にもなっており、花崗岩類相互の境界や花崗岩類周辺の接触部付近に晶洞（花崗岩体の中に作られたガス溜まり）が形成され、花崗岩体が冷やされると溜まっていたガスや液体が結晶しはじめて水晶が生成します。

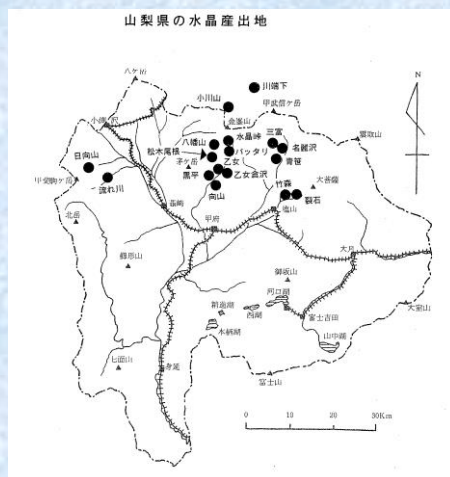
水晶鉱山

山梨県は四辺を峻しい山岳に囲まれている。北方に位置する山脈は秩父多摩甲斐国立公園からなり、最高峰の金峰山周辺には甲府花崗岩体（みかげ石）が広く分布しています。この甲府花崗岩体中からは、全国にも稀にみる美しく、良質で、大型の水晶の産出が知られています。

山梨県では、古くから水晶鉱床の開発が盛んに行われ、多くの水晶が採掘されました。これにともない、甲府市を中心に研磨・宝飾業が著しく発展して本県の地場産業の礎が築かれました。今でも、県産の水晶や水晶の工芸品が観光地の特産品になっています。

一方、工業製品への利用が高まるにつれて、県内では山梨大学を中心に人工水晶の開発研究が行われ、世界的に有数の技術を備え、工業化が進められて来ました。

山梨大学の水晶館はこれらの貴重な水晶の歴史が詰まっており、長く保存されています。

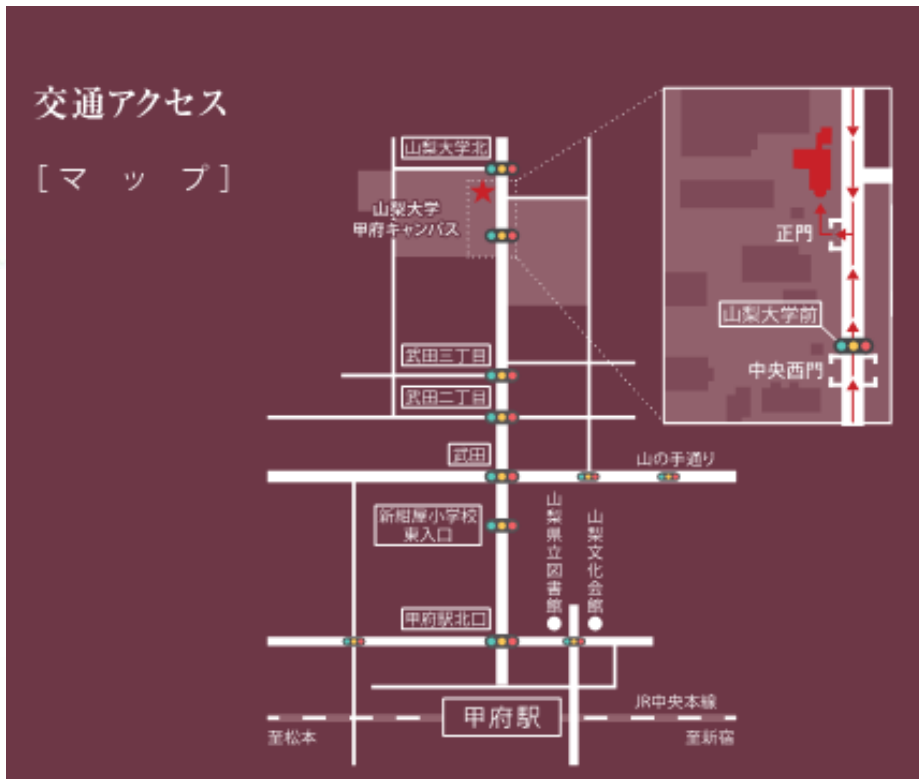


主な水晶産地と水晶の特徴

| 鉱山名(山地) | 所在地 | 結晶の形態等 | 特徴 |
|---------|---------------|-----------------------------|---|
| 乙女 | 山梨市 甲府市御岳町 | 柱状、平板状、両頭 両頭平行連晶、日本式双晶 | さまざまな形態の水晶を産出。日本式双晶も見られる。 |
| 川端下 | 長野県南佐久郡 | 柱状、柱状平行連晶、松茸状 日本式双晶、かま水晶 | 石灰岩の発達するスカルン鉱床中の石英脈から産出。水晶表面が荒れている。稀に大型の日本式双晶 |
| 八幡山 | 北杜市須玉町 | 大型柱状単晶、平板状 日本式双晶 | 東洋最大といわれる六角柱状の単結晶と日本式双晶の美しい水晶を産出。やや黄色味を帯びた透明で柱状に長く伸びた結晶が多く見られる。 |
| 竹森 | 甲州市塩山 | 柱状単晶、微小の群晶 | 結晶中に電気石、白雲母、緑泥石を多く包有する。昔は大型で無色透明の結晶を産出した。 |
| 水晶峠 | 甲府市黒平町 | 柱状単晶、錘状単晶 日本式双晶 | 緑色の草入りないし緑色半透明の結晶を特徴とし、山入りや升石入りも見られる。光沢のある美しい水晶の群晶を産出。 |
| 向山 | 甲府市黒平町 | 柱状単晶 | 濃緑・褐色の松葉状入り、草入り透明ないし半透明の結晶が特徴的。大型石英脈より群晶や暮盤石の産出した。 |
| 黒平 | 甲府市黒平町 | 短柱状 | ペグマタイトの晶洞から薄茶色から黒色の煙水晶とカリ長石の群晶を多数産出。しばしば、柱面上に湾曲した条線が発達。まれに紫水晶も産出。 |

交通アクセス

[マップ]



入館料：無料

開館時間：午前10時から午後4時

休館日：毎週火曜日、本学が定める夏季休暇期間
年末年始休暇期間

所在地：山梨県甲府市武田4-4-37（大村智記念学術館に併設）
Tel 055-220-8059

ホームページ：https://omura-museum.yamanashi.ac.jp/

メールアドレス：omura-museum@yamanashi.ac.jp

※表紙の写真の素材は人工水晶の表面模様
※写真・文章の一部は水晶図録から抜粋、その他
の写真・文章の一部は角野謙贇氏による